

1 充実した幼児期のために

(1) 接続期に大切にしたい5つの生活と遊びについて

幼児教育施設においては、環境を通して幼児の資質・能力を育むことが大切です。

5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現をいう。3歳児からの発達の特徴については、23ページの表を参照。）のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」です。この姿は、到達すべき目標ではありませんし、個別に取り出されて指導するものでもありません。また、個人差が大きいものでもあります。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として示された10項目のどの姿も等しく大切に育んでいきたいものですが、堺市のめざす子ども像と、堺市の子どもたちの現状を考え合わせ、特に5つを重点化して堺市として接続期に特に大切にしたい5つの生活と遊びを定めました。これは、入園から修了までを見通して各園の教育計画や教育・保育計画の中に盛り込み、園での生活全体を通して育むことができるよう、園としてのカリキュラム・マネジメントをしていく中で、特に意識して取り組んでいただきたいものです。どの幼児教育施設から就学した子どもも、この5つの生活と遊びの経験を等しく重ねていることにより、小学校生活のスタートがより円滑に、より充実したものになると考えています。

＜ 楽しく体を動かそう ＞

平成28年度の堺市立小学校における新体力テストを集計し、それをもとに堺市平均と全国平均とを比較し、過去5年間の推移について見たところ、ほとんどの項目において堺市の記録が全国平均を下回っていることがわかりました。一年生にも同じ傾向が見られます。

幼児期に様々な動きの経験を重ねることの大切さは、「幼児期運動指針」でも示されていますが、堺市においては特に意識をして取り組む必要があると言えます。日々の保育の様々な活動の中で、楽しみながらいろいろな動作を取り入れることができるように計画することが大切です。遊びを通して、多くの種類の運動を経験することが運動能力の向上につながります。

＜ ねばり強く取り組もう ＞

いろいろな遊びから自分がやりたいことを自分で選んで行動し、少し難しいと思うこともやってできた満足感を味わうなどの体験の積み重ねの中で、幼児は、自分の力でやってみようとして、考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げる体験を通して達成感を味わい、自信をもって行動するようになります。どのような活動内容を設定するのか、どのタイミングでどのように支援するのかを意識して保育に取り組むことが求められます。

＜ 豊かな言葉を身に付けよう ＞

今回の幼稚園教育要領等の改訂において、領域「言葉」では、「言葉に対する感覚を豊かにし」という文言がねらいに付け加えられ、「内容の取扱い」の項において「(4) 幼児が生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること」が新設されました。

幼児期に豊かな言葉に触れ、言葉による伝え合いを重ねることは、小学校の生活や学習において、友だちと互いの思いや考えを伝え、受け止めたり、認め合ったりしながら一緒に活動する姿や、自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする姿などにつながっていきます。

＜ 数に親しもう ＞

幼児期における数量に関する指導は、確実に数を数えられたり、正確に計算したりすることをめざすものではありません。幼児期に大切にしたいことは、遊びや生活の中で、必要感をもって、多い少ないを比べるために物を数えたり、長さや広さなどの量を比べたり、様々な形を組み合わせて遊んだりすることなどを通して、数量や図形への興味や関心を深め、感覚を豊かに磨いていくことです。このような感覚が、小学校における学習の生きた基盤となります。単に正確な知識を獲得することを目的とするのではなく、それぞれの場面で、活動の広がりや深まりに応じて数量に親しめるよう、工夫しながら環境を整えることが大切です。

＜ 決まりを守って生活しよう ＞

幼児は、友だちと様々な体験を重ねることを通して人間関係が深まる中で、決まりを守る必要性がわかり、友だちと一緒に心地よく生活したり、より遊びを楽しくしたりするために、自分の気持ちを調整し、友だちと折り合いを付けながら、決まりをつくったり、守ったりするようにもなります。単に決まりを守らせることだけでなく、必要性を理解した上で、守ろうとする気持ちを持たせることが大切です。このような経験は、相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりなどしながら、気持ちや行動を自律的に調整し、生活上の決まりを理解し、守ろうとする力の基盤になっていきます。

5 歳児の活動を見直す 3 つのポイント

- しっかりとめあてをもって取り組んでいるか。
- 友だちと協力して進めているか。
- 力をもて余したり、遊びが停滞したりしていないか。

